



1. コンクリート工事を大略終りし取水口前面。
(寫眞下方に見ゆるは假締切)

小野川發電所工事に就て (下)

東京電燈株式会社土木課長 大 島 満 一

10. 水路工事施行

土木工事及發電所建物工事は軌道工事を含め、一式飛鳥組に請負はしめ、工事場で組が起工式に代る御祓をしたのは昭和11年6月19日であつた。夫から飯場建築工事材料準備に取り掛り發電所基礎だけは7月初めより着手したけれど其他は8月初め着手した状態であつた。

取水口工事は小野川湖の満水位から約8.8米下りの水位迄取入れる工法であるのに、在來の小野川堰堤水門では水位が満水位から3.2米だけしか下げられないので、施工方法に特別の工法を採用した。其は湖畔陸上より堅坑を下し、満水位より約15米下りを閘として水門を設け、之より湖底に隧道を鑿ち、湖畔締切内で取水口及塵除装置等を完成し、昭和

12年11月13日に締切を取り拂ひ、同年12月より翌年3月迄は湖水位を満水以下3米迄に限定して、發電所を運轉し、4月以降運轉を中止し、湖水を竣工した、水路に依り排除し乍ら湖底を掘り下げ、(昭和13年夏は度々の洪水の爲め湖水位を下げる事出来なかつたので遅れたが)10月初め此湖底掘鑿を終了して、今日では小野川湖は満水位以下豫定の深さを使用する事になつた。

水門はスライディングゲート(杉浦鐵工所)で、バイパスを有し、10馬力電動捲揚機(關機械)に依り運轉さる。隧道は工事期間が短いために全長約1軒に過ぎないので對して、堅坑2ヶ所横坑1ヶ所より掘鑿並にコンクリート巻を施工した。掘鑿は大方手掘とし、終りに少し機械掘にした。水壓15米以上掛るの